

(1) 萬國工業會議發會式に於ける總裁宮殿下の令旨

工學の精華日本の秋を飾り

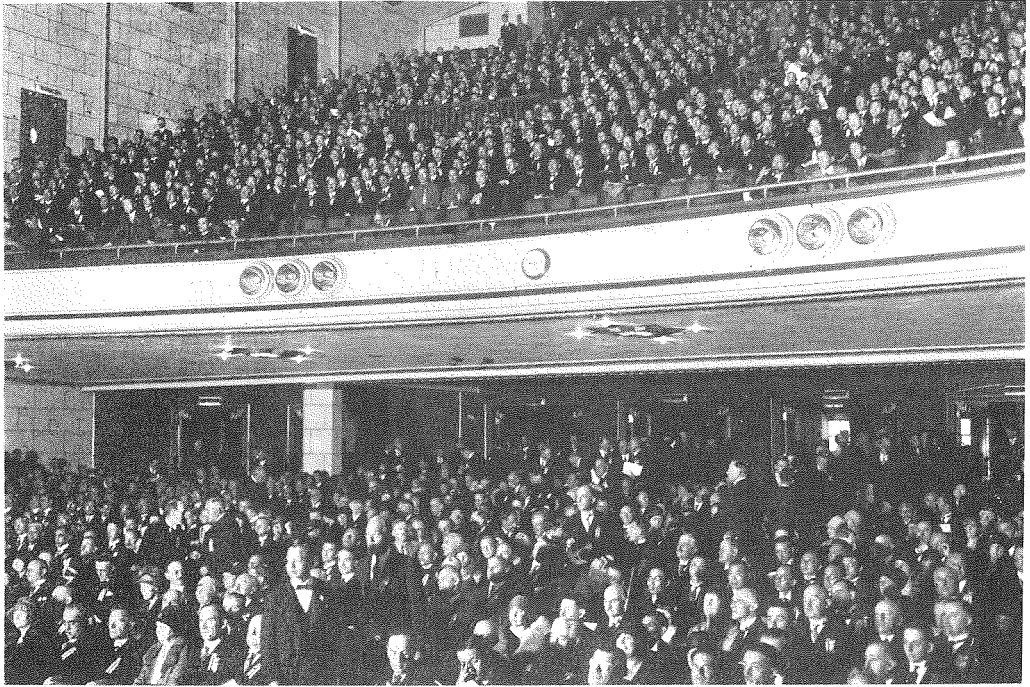
◇ 萬國工業會議東京に終る ◇

二十世紀科學文明の精華たる第一回の萬國工業會議は、世界工學界の權威を集めて豫定の如く十月二十九日午前九時東京日比谷公會堂に於て開會式が舉行された、當日は細雨の中を世界二十七個國の代表及びその家族六百名に我國の會員二千五百名參集し、九時卅分秩父總裁宮殿下式場に臺臨あり總員起立奉迎中、軍樂隊の君が代劉亮して場の一隅に起り場内肅として崇嚴の氣に満ちた。やがて演壇に進まれたる殿下は御聲爽かに『内外に於ける多數知名の専門家ご一堂に相會し此に發會の式を舉げ一言を述ぶるこそを得たるは予の最も欣幸とする所なり……』云々この令旨を賜はり、次いで濱口名譽會長及び古市會長の挨拶が終りABC順により米國代表たる強力探照燈の發明者スペリー博士、英國工學會前會長トレンチ博士、支那の胡博淵氏、フランス代表ドベール博士、獨逸代表ケットゲン博士、伊太利代表ルイギ博士、スエーデン學士院長エンストレーム博士等七個國の代表登

壇謝辭を述べ、次に各國政府並に學會よりのメツセージ奉呈式あり、再び君が代奏樂裡總員起立奉送中を殿下御歸還遊ばされ目出度く開會式を終つた。小憩後に議事規則制定、各部會座長選舉、米大統領フウバー氏に感謝狀發送等を可決して散會した。

第二日たる十月三十日より十一月六日まで貴族院内に於て豫定のプログラムに依り各部會を開催し、同七日無事閉會式を舉行した。此間に會する事八十三回、總裁宮殿下の臺臨あり、出席海外代表四百六十名、日本側出席二千四百名、提出論文七百八十篇に上り、學究的な質問討議の出たものも相當あつた。

從來歐米學會から重視されなかつた日本の工學發達ぶりを遺憾なく紹介して彼等に眞の近代日本を知らしめた事は大なる成功の一であるが、尙ほ七日の總會にて次の決議を可決した。而して海外代表の多くは八日から豫定のスケジュールで工業地及び名勝地を視察した。



(2) 10月29日、日比谷公會堂に於ける英國工業會議總會の盛況



(3) 帝國ホテルに於ける W.E.C. 及 W.P.C. の米國夜會の景